

進路便り

令和 7 年 9 月 30 日
進路指導部 No. 5
都立港特別支援学校長 岡戸 良雄
発行 進路指導部

厳しい暑さが長引く中ではございますが、保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。2 学期も引き続き、企業や福祉施設との連携を深めながら、生徒一人一人の進路実現に向けて取り組んでまいります。今号では、夏季休業中に実施した相談機関訪問の様子や、卒業生の近況報告、普通科 1 年進路学習会の内容についてお知らせいたします。

■職能開発科 2 年 相談機関訪問

職能開発科では、例年 2 年生の夏休みに、在住区の障害福祉課を保護者同伴で訪問しております。内容としては各種障害福祉サービスや愛の手帳の成人更新について、また 20 歳になった際の障害基礎年金の申請に向けての説明と相談の時間を設けていただきました。卒業後に困ったことがあった時や相談したいことがあった時の皆さんの応援団の一人になってくれることを知ることができました。

■卒業生 定着支援の状況 普通科

家庭・就労先・就労支援センターなど各関係機関と連携して、就労 1 年目～3 年目までの定着支援を行っています。実際に担任や進路担当が訪問し、本人の様子や困り感など、本人・就労先の相談に乗りながら支援を行っています。

1 年目の卒業生は、社会人として仕事の流れを覚え少しずつ職場に慣れてきている様子が見られました。2 年目 3 年目の卒業生は、人事異動など環境の変化に戸惑いながらも、働くモチベーションを保ち続けて頑張っている様子が見られました。

職能開発科

夏季休業中を中心に、就業 1 年目から 3 年目の卒業生の定着支援を行っています。また、今後の相談窓口となる、在住区の障害者就労支援センターの担当の方に同行してもらい引継ぎを行いました。1 年目の卒業生は、新しい環境に早く慣れようと努力をしていました。2 年目の卒業生は徐々に仕事が増え、忙しいと感じつつもやりがいを感じ、後輩指導にあたる頼もしい姿も見られました。3 年目を迎えた卒業生はすっかり社会人の顔となり、職場の方からの信頼も厚くなっていました。反対に、勤務年数に関係なく、ゲームのやりすぎ、生活リズムが崩れ、日中に眠そう・集中に欠けるケースも見られました。在学中から生活リズムを整え、ゲームや動画の時間管理ができることが大切だと感じます。何事も、アドバイスを素直に受け取り、挨拶や報告などのコミュニケーションをしっかりと行うことで、先輩や上司からも信頼されるようになると改めて感じました。一つ一つ積み上げていくことが、成長への一歩です。

■普通科 1 年進路学習会の報告

9 月 17 日(水)に普通科 1 年生保護者向け進路学習会を行い、41 名の保護者の方が御参加くださいました。前半は、生活介護（品川区立西大井福祉園）、就労継続支援 B 型（大田区立大田福祉作業所）、就労移行支援（レインボーワークス）、障害者就労支援センター（渋谷区障害者就労支援センター）の 4 事業所の方々から、それぞれの福祉サービスの事業概要や求められる力、各事業所の特色などに関するお話が聞け、卒業後の就労先について理解を深める機会となりました。後半は、3 つの分科会に分かれ、事業所の方に直接、卒業後の利用に関する質問をすることで、素朴な疑問や不安を皆で共有する貴重な機会となりました。

